



ほけんだより

平成22年第113号



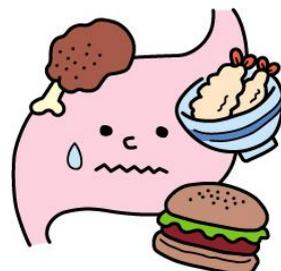
子育て施設課
0823-25-3144

自家中毒症とは

自家中毒症は、医療的には周期性嘔吐症またはアセトン血清嘔吐症と呼ばれています。2歳ころから発症し始め、10歳ころには発症しなくなる子ども特有の疾患です。特に6歳以下の“痩せた”男の子に多いといわれています。

発作的に繰り返す嘔吐と特有な口臭（ケトン臭）を主な症状とする疾患で、尿の検査でケトン体が認められます。

【原因】



原因はよく分かって

いませんが、感情の高ぶりなどの刺激が脳の嘔吐中枢を興奮させて起こると考えられています。同時に脂肪代謝が亢進するため、血液や尿の中にケトン体（脂肪の分解により肝臓で作られ、血液中に放出される物質）が増加します。

誘因は、感染、食べ過ぎ、精神的緊張、睡眠不足、環境の変化などが考えられています。

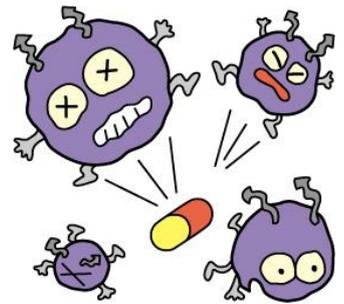
年上の兄弟に負けまいと頑張る「年下の子」、両親と大人の時間を付き合う「一人っ子」、「夜更かし」、神経質な子等に多いと言われています。言い換えれば、「夢中になりやすい子」、心身の疲労があり、周囲の助言が聞こえなくなってしまう「頑張りが続く子」に多いようです。

【症状】

- 1 症状は、吐気、嘔吐ですが、それ以外に頭痛や腹痛を訴えることもあり、早朝に発症することが多いです。
- 2 検査は、尿検査でケトン体陽性により証明できますが、ケトン体陽性は本症に特異的な所見ではありません。
- 3 嘔吐するとケトン口臭（りんごがすえたような独特の臭い）がします。
- 4 嘔吐や脱水がひどいと、意識障害や興奮、意識の消失していく、睡眠に似た状態になることがあります。
- 5 低血糖が時々みられます。

【家庭での対応】

- 1 嘔吐が軽い場合は、嘔吐をしない程度の水分の摂取を行い、静かな場所で安静と睡眠を取らせます。目が覚めたら吐気の有無を確認し、少しずつ水分を勧めます。6～9時間後、吐気がなければ、野菜スープやみそ汁、あるいは半固形物（おかゆやうどん）を少量与え、十分睡眠を取るようにします。
- 2 吐き気止めの座薬を使用して、1時間後に水分を与えるのも有効です。吐気がひどくて水分が取れない場合は、点滴による水分補給を行います。



【医師の診察】

なるべく早く医師の診察を受け、その指示に従いましょう。脱水が強いことが多く、そのために、血液中の電解質（ナトリウム、カリウム、カルシウムなど血液中で一定の濃度を保ち、人が健康に生きていくための役割が大きい）のバランスが崩れているので、吐き気止めの薬や座薬、点滴等を行います。



【再発予防】

- 1 予防には、規則正しい生活習慣、十分な睡眠をとらせましょう。
- 2 疲労を蓄積させないようにしましょう。
- 3 できるだけ静かな生活が大切です。
- 4 テレビやビデオ、テレビゲームの多い生活は避けましょう。
- 5 子どもに刺激が大きなイベント（遠足、旅行、引っ越し、お遊戯会など）の後には、軽い食事と早めの睡眠を勧めます。

